

医療シミュレーション教育に有効な教育用電子カルテの開発

宮崎大学医学部附属病院医療情報部 ○山崎友義 鈴木齋王 荒木賢二

株式会社 コアクリエイト

甲斐徳裕 曾我部泰子

【はじめに】宮崎大学医学部附属病院（以下当院）は、2009年から1年間に当院の電子カルテに記録された患者のテキスト記録に含まれる個人情報の匿名化を行い、これを用いて医療安全教育や病院経営分析研修を実施している。しかし、この匿名化では、テキスト記録しか匿名化を実施できず、スキャン記録や画像記録に含まれる個人情報の匿名化はできなかった。その結果、これを用いる教育・研修では、全ての電子カルテ記録を利用できない課題があった。これを解決するため、テキスト記録だけでなく、スキャン記録や画像記録に含まれる個人情報の匿名化した教育用電子カルテの開発をおこなった。

【方法】2012年1月から12月の入院患者より、医療安全教育、経営分析用研修、クリニカルパス・地域連携研修の3分野に絞り、各1000症例（計3000症例）を選択し、匿名化をおこなった。匿名化はテキスト記録とそれ以外の記録に分離して匿名化した。テキスト記録は、個人情報を管理する全てのマスターファイル（MF）と照合し、匿名化をおこなった。スキャン記録や画像記録の匿名化は、テキスト記録と分離後、目視にて個人情報部分をマスキングした。匿名化処理後に各記録は、電子カルテ記録として再編成し、教育用電子カルテとした。

【結果】匿名化処理にて、選択した症例の患者氏名を含む個人情報は、復元不可能の記号に変換し、スキャン記録や画像記録は個人情報に関する部分を全てマスキングした。ただ、記録・実施日時は入院日を基点とした相対日時に変換しなかった。

【考察】電子カルテの個人情報は、MFとの照合や目視によるマスキングによる匿名化は可能であったが、記録の相対日時化は、今回の開発ではおこなわなかった。開発した教育用電子カルテは、利用者や利用部署を限定すれば、リアルなデータを用いた医療の教育・研修に有効と考えられる。しかし、より匿名化を強化するには、相対日時化を含む多くの匿名化処理技術が求められる。